

令和6年度 第3回 エルシーブイ放送番組審議会

■開催日時 令和6年12月12日(木) 午後1時30分～午後3時00分

■場 所 エルシーブイ株式会社 本社会議室

■出席者 委員総数 3名

出席委員	市川 純章	委員
	河西 滋子	委員
	赤沼 喜市	委員

放送事業者側 (9名)

深井 賀博	代表取締役社長
大野 弘信	専務取締役
堀川 久志	放送制作部 部長
吉田 和晃	放送制作部 コンテンツ制作課長
小池 利幸	放送制作部 放送コミュニケーション課長
早川 達朗	放送制作部 編成課長
國枝 翔馬	放送制作部 コンテンツ制作課 (審議対象番組ディレクター)
小池 嘉則	放送制作部 放送コミュニケーション課 (審議対象番組・中継担当)
内藤 由里子	事務局

## ■議 事

### 1. 審議事項

【審議番組】 TOKAI グループケーブルテレビ10社合同 ミニ謝恩祭  
12月放送回

<委員からの主な意見>

#### □番組を評価する意見

- ・各局が趣向を凝らして題材を選んでいた番組全体が明るく楽しい番組だった  
リポーターが元気で、スタジオの印象も明るい。河本準一さん、成山アナウンサーのMCも新しさを感じた。
- ・中継先のレイクフット岡谷について、夏に行ったことがあったが、ワカサギ釣りで行ったことがなく、新しい機材やテントなど知らないことが多かった。地元の人にとっても新しい発見になった。
- ・諏訪湖のワカサギ釣りを全国に知って貰うとともに、途中のVTRでは、諏訪湖の花火なども含めてPRし、諏訪地域の外に向けて発信できた。
- ・電波(スタジオMCと中継差先リポーターの間のコミュニケーション)が通じにくい場面があったが、リポーターもそれを感じさせないよう上手く演出して進行していた。
- ・河本さん、成山さんのMC2人がなれていて、テンポよく番組を進めていた。
- ・諏訪湖=ワカサギ。ワカサギ釣りをしたのは、氷上で寒かった思いしかないが、新しい施設で、観光客が気軽に楽しめることがよくわかった。新入社員の女性がたくさん釣っていたので、私にも釣れるのではと思わせてくれた。
- ・仙台のワイナリー、仙台でもワインを作っていることを知ることができた、ご当地を紹介する番組は、日本各地を旅している気分になる。そずり鍋も食べてみたくなった。
- ・プレゼントは新しい試み。各局魅力ある内容のプレゼントで、電話で生出演した当選者も諏訪地域の地元で、エルシーブイの番組を見ているという人で良かった。
- ・一般の人にインタビューをしていたのは、エルシーブイだけだった。やり取りの楽しさ、生放送だからこその楽しみもある。

#### □番組をよりよくするための意見

- ・グループ局を活用した企画ではあるが、離れていれば離れているほど(遠方であれば遠方であるほど)地域の話に価値が生まれるのか。300km、400km離れた地域から、諏訪に来てもらえるかどうかという課題は残す。ただ、信念をもって続けることがいつかは何かの効果につながると思う。
- ・コンテンツに地域性があまり感じられない。現地のアナウンサーが顔をだしてしゃべっているという印象。その場、LCVの雰囲気を感じることは臨場感にはなっていなかった。
- ・臨場感について、3局それぞれで感じるものがなかったので、違うところでやっているという臨場感があればもっと良くなる。

- ・諏訪湖の台船を紹介する場面で、台船が諏訪湖の湖上に浮かんでいることがわかる説明が十分でなかった。VTRで、建物とウッドデッキを紹介した後、中継映像で台船に切り替わっていたので、台船のことを知っている地元の人でなければ分からない。
- (>>答：冒頭の船で台船に向かうシーンで、映像を台船にズームすればよかったとスタッフ間で有した)
- ・VTRで、湖上での信州プロレスのイベントを紹介していた。レンタルスペースとして貸し出して行われたイベントなのか、施設の主催イベントなのかの説明はなかったが、レンタルスペースとして借りることができるのであれば、地元のひとには新しい情報になる。
- ・エルシーブイのスタジオから生放送していることがわからなかった。諏訪らしい状況を背景にして放送できればよかった。河本さんの「LCVのスタジオが広い」というコメントがあったが、どこが広いのか、どのくらい広いのかが（映像の表現で）わかればよかった。
- ・3局がおなじ作り＝フォーマット化された印象ではある。ただ、各社が違う作りであれば、（番組全体がまとまらず）バラバラな印象になる。10局で知恵を出して工夫してほしい。
- ・(>>問：生中継の必要性は？収録番組でもよいか？)生中継はスタッフのスキルアップにはなると思う。コンテンツの面から、例えば食レポの臨場感などは無かった。VTR（収録番組）でなく生中継にするのなら、「今」のつながりは必要。
- ・例えば秋保ワイナリーを紹介する場合、仙台駅からどのようにしていくのか、（どのような位置関係にあるのか）がわかりにくかった。ワカサギ釣りも手ぶらで行かれるのか、料金はいくらかかるのかなどの基本情報が知りたかった。問い合わせ先がわかればよい。

#### □その他

- ・再放送はどのようにしているのか
- (>>答：電話番号の案内を修正するなど再編集をしている。放送時間は各局それぞれ)
- ・生放送が第一日曜日の午後1時は理由があるのか。
- (>>答：WGでの検討し見ていただける時間帯として)
- 再放送も含めて、ゆっくり視聴できる時間帯か、他局の番組編成なども含めて、より見られる時間帯に放送する視点も持っていてほしい。決まった曜日、時間に放送するのであれば、見たいと思う人には定着するのではないか。
- ・いまは共通のものを見るものがなくなり、個別のものを見るようになっている。より、ローカルを発信することが価値を持つのではないか。地域の役員をしない人が増えたのは、便利になりすぎて、身近な人と協力しなくても済むようになったからだと思う。（エルシーブイのような）ローカルなメディアには、意図的に人と関わること、関わりを作ること、繋がりにフォーカスすること、番組がつながること、が求められるのではないか。他所の地域でも、頑張っている人、ローカルだけれども、人と人とのつながりがどうあるのかがわかると、興味を持つ。

以上